



# だっこするよ

平成30年6月

社会福祉法人茂原高師保育園

北区立赤羽台保育園

〒115-0053 北区赤羽台1-4-11-105

TEL 3900-0189 FAX 3907-8690

園長 奥戸 昌子

## 平和で民主的な保育へ 自分の気持ちを話すことから

梅雨とは言え、初夏のまぶしい陽射しが続いています。毎日の戸外活動でこどもたちは、ほんのりと日焼けしてきて遅くなりました。2ヶ月が過ぎて、0、1歳組さんも生活の流れが分かってきました。そろそろお散歩の時間、大好きな保育者に名前を呼ばれると嬉しそうにマークを見つけ帽子と靴下をもって、出発の準備をしようとしています。泣いていた自分にきっぱり別れを告げて、一人ひとりがゆっくりと自立へと歩んでいます。素敵です。お部屋へ顔を出すとそれぞれに遊び、満面の笑顔を返してくれます。可愛いなあ〜と私は見るたびにうっとりして顔がぐにゃぐにゃになります。

そして、幼児組では、平和で民主的な保育を行っています。平和で民主的とは、クラスの誰もが平等であり、みんなの総意で活動を決めていく保育です。時には、誰かの声の大きさに左右されたり、大人の提案にあっさり賛成したりすることもあります。自分達で考えて、選び、みんなの総意で決めることを大切にしています。日々の保育日誌からこどもたちとの会話が伝わってきます。「島下公園へ行くことに決まった」「自然観察公園で虫を見つけないかなど等、意見のぶつかり合いもあるでしょう。しかし、思うようにならないことの練習は保育園だから出来ることですね。悔しくて泣く気持ちも嬉しくて飛び上がる気持ちも全部心の器を大きく深くしてくれて、他者への共感が育ちます。その中で、違う意見が面白い、相手を排除するのではなく尊重し合うことも学ぶでしょう。園生活の主体者はこどもたちです。児童の権利条約第12条に意見表明権が定められています。「自己の意見を形成する能力のある児童が、その児童に影響を及ぼすすべての事項について自由に自己の意見を表明する権利を確保する。その児童の年齢及び成熟度に従って相応に考慮される」と。大人が全てを決め、指示してやらされる活動とは違いが生まれます。そのため相応に考慮し、保育指針でも「指導」ではなく、更に深い「援助」と表現されています。意思を見守り、支えて、ありのままのこどもの姿を愛すること、受け止めること、こどもの先をこっそり工夫すること、創造すること、安心の保育環境を整えて、こどもたちがやりたいと思うことが沢山ある園にしていきたいと思います。

故佐々木正美氏は、「こどもへのまなざし」の著書の中で遊びに大切さについて「こどもは単に快樂のために遊ぶのではない…ということ」を優れた観察と研究によって確認した旧ソ連時代の発達心理学者ヴィゴツキは『こどもは何故遊ぶのか』ではなく『こどもは何故遊ばなければならないか』ということを大人や教育者は真剣に考えなければならないと言っています。成長や発達のためにこどもが自発的に、自分の知力や体力の限界を試しながら努力しようとするのは、遊びのときだけかも知れません。遊びから得る喜びや感動が、こどもの心の発達や人格形成に豊かな恵みをもたらすのです。」と書かれています。こどもは遊ばなければならないのです。遊びから得られる喜びや成長、遊ばない不利益を理解して乳幼児期の今こそ、こども時代をこどもらしく育てたいものです。

写真は、きりん組のどろんこ遊びです。ぼんやりしている子はいません。全員が忙しく触覚？の手、足を動かし、全身で泥と水を受け止めて、飽きることなくみんな仕事人でした。砂場の水路を深く掘り、カフェではお食事もできます。溜めた水に浸かる子、水が流れる方向をくい止めようとする子、もう彼達の好奇心は止められません。その日保育参加して下さったお母様有難うございました。是非、6月、幼児組は保育参加にお越しください。火、木曜、私も着替えを用意して参戦したいと思います。